

# 【シェアリングエコノミー × SDGs】

## 脱炭素への貢献効果をはじめとする調査結果を公表

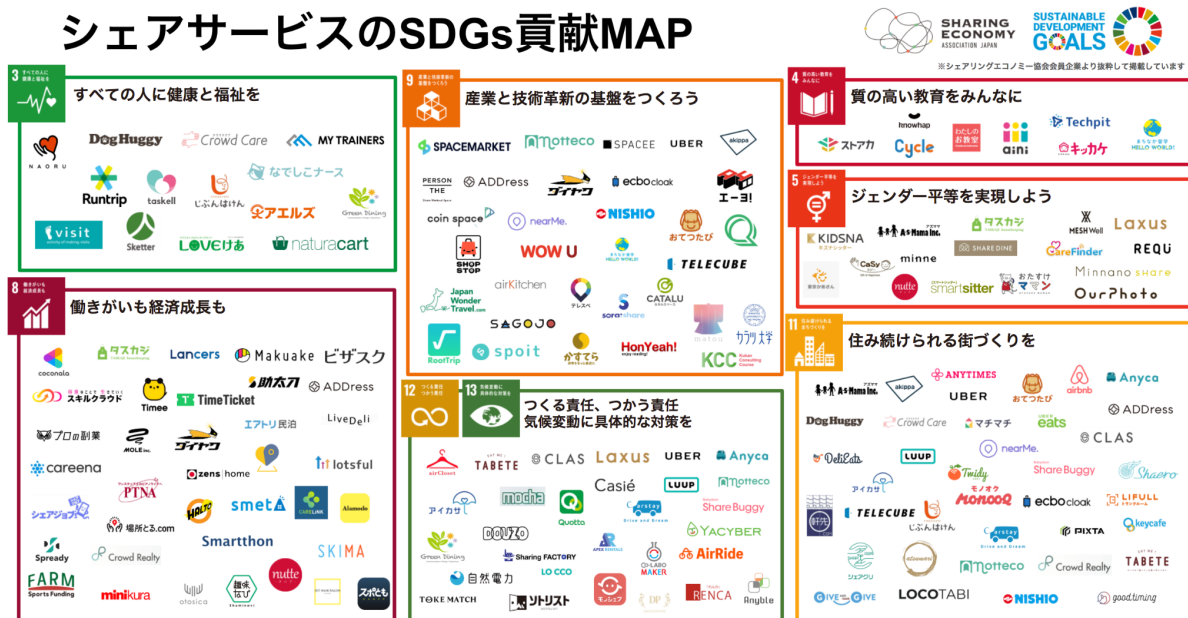
2022年4月5日(火)14時～15時半 オンラインメディア向け説明会を開催

一般社団法人シェアリングエコノミー協会は、株式会社情報通信総合研究所と共同で、「SDGs × シェアリングエコノミー」に関する調査を行っています。

この度、4月5日(火)14時～15時半に脱炭素をはじめとする、環境負荷にどれだけ貢献するのかを調べた最新の調査結果や、15社のシェア事業者による「SDGsに貢献する取り組み」などを発表する、メディア向け説明会を開催します。

2020年11月、ICRとの調査により、“シェアリングエコノミーがSDGsに多面的に貢献すること”が明らかになり(\*1)、2022年1月、よりわかりやすくSDGsと各サービスの関連性を発信していくために、2種類のマップを作成(\*2)しました。

### ① シェアリングエコノミー協会会員企業のSDGsカオスマップ



(※)主に該当するのは17の目標のうち下記項目になります。

# SDGsへの貢献効果

- スペース・モノのシェアに着目し、持続可能性向上・気候変動対策に資する、資源消費減少効果とCO<sub>2</sub>排出減少効果を推計 ※サプライチェーンの資源消費・CO<sub>2</sub>排出も含めて推計

SDGsへ貢献するシェアリングエコノミーの効果の例	対応するSDGs
• 医療・介護サービスが受けられる人の増加（医療・介護スキル）	3 すべての人に健康と福祉を
• ニーズに合う教育を受けられる人の増加（教育スキル）	4 質の高い教育をみんなに
• 労働参加できる女性の増加（育児・家事スキル、クラウドソーシング）	5 ジェンダー平等を実現しよう
• 失業を回避できる人の増加（全カテゴリ） • 働きがいを感じる人の増加（民泊、スキル全般）	8 働きがいも経済成長も
• 観光振興（民泊、体験スキル）、企業支援・関係人口増加（専門スキル）	9 産業と技術革新の基盤をつくろう
• 移動手段の確保・移動費用の減少（移動全般） • 買い物のための移動の負担減少（買い物代行） • 都市周辺部と農村部の交流拡大（全カテゴリ）	11 住み続けられる街づくりを
• <b>既存資産活用による建設・製品製造・ごみ処理時のCO<sub>2</sub>排出の減少、資源消費の減少（スペース、モノ）</b> • エネルギー消費の減少（サイクルシェア、相乗り）	12 つくる責任つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を

ICR 情報連携総合研究所

## ② 各シェアサービスを利用することで広がるSDGs貢献イメージ

SDGs達成の為に“今すぐできるアクション早見表”としても、ぜひご活用ください。

### シェアサービスのSDGs貢献MAP

～今すぐ使える目的別アクション一覧～

**個人間のシェア 共通の貢献**

対面

- つながりの増加で 貧困・孤独を予防したい  
自然なつながりが生まれやすい  
A+Mama Inc. TimeTicket ANYTIMES aini おてつたび
- 関係人口を増やしたい  
地域観光・体験 / 地域協力

非対面

- 人間らしい 収入を増やしたい  
個人商店街にいるような働き方相互レビューで不当な扱いが防げる
- 不平等・偏見の少ない労働機会を増やしたい  
年齢や見た目ではなくレビューで評価  
Lancers REQU
- オンライン関係人口を増やしたい  
都市と地方の個人開取引 / オンライン体験 / 地方応援クラファン  
airbnb Makuake

**空間・モノ・移動のシェアの貢献**

- ゴミの発生を減少させたい  
必要以上の消費の減少・ゴミ処理減少でCO2削減  
SPACEMARKET LAXUS akipda airCloset
- 都市と地域のつながりを増やしたい  
民泊 / 多拠点居住  
ADDRESS airbnb

**移動のシェアの貢献**

- 都市・地方の新しい移動手段がほしい  
相乗り・サイクルシェアやエネルギー消費の減少  
Motteco UBER
- LUUP nearMe

**シェアエコ共通の貢献**  
(個人開取引・レンタル型)

生活コストを減らし 遺棄資産を価値にしたい  
資源を廃止したい 法人サービスより安価に購入可 手持ちの資産で経済に貢献

**スキルのシェア一部の貢献**

- 介護人口不足への貢献したい  
個人の介護スキル活用  
Crowd Care Sketter
- 多様な教育機会がほしい  
多様な知識・経験を安価に購入  
ストアカ
- 個人スキルで産業支援したい  
個人の専門スキル活用で企業の成長・イノベーションを促進  
ビザスク LOCOTABI
- 好きな時間に労働機会を増やしたい  
子育て・介護中でも短時間で労働可能  
シェアジョブ MESH Well
- 地域住人で助け合いしたい  
家事代行・ベビーシッター・買い物代行  
コスカサ KIDSNA Twiddy

※シェアリングエコノミー一部証マーク取得サービスを中心にピックアップしています。掲載サービスは一例です。

## （初公表）既存のスペースやモノをシェアすることで得られる脱炭素効果

今回新たに(上記 ※ 図の赤文字部分)「既存資産活用による建設・製品製造・ごみ処理時のCO2排出の減少、資源消費の減少(スペース、モノ)」のシェアに着目し、2030年に予測される「CO2排出削減効果」を推計しました(\*3)。

【2030年度 スペース(会議室等の空間利用)のシェア+モノ(フリマアプリ・レンタル等)のシェアリングサービス普及に伴うCO2削減量】

シェアリングを利用した際の合算したCO2削減量は宿泊業や小売業が一年に排出するとされるCO2排出量を、上回る削減効果があることが分かりました。

## 2030年度のSDGsへの貢献効果予測①脱炭素社会への貢献

スペース関連のCO <sub>2</sub> 排出量		モノ関連のCO <sub>2</sub> 排出量		合計	
シェア活用前	新築建設時のCO <sub>2</sub> 排出量	建設廃棄物処理のCO <sub>2</sub> 排出量	家庭で利用するモノの生産時のCO <sub>2</sub> 排出量	家庭ゴミ処理のCO <sub>2</sub> 排出量	CO <sub>2</sub> 排出量合計
	4,036万 t-CO <sub>2</sub>	233万 t-CO <sub>2</sub>	1,618万 t-CO <sub>2</sub>	240万 t-CO <sub>2</sub>	6,127万 t-CO <sub>2</sub>
スペースのシェアサービスで既存の建築物をシェアして活用		モノのシェアサービスで既存のモノをシェアして活用		スペース・モノのシェア活用	
シェア活用後	新築建設の減少	建設物解体の減少(廃棄物減少)	新品購入の減少	家庭ゴミの減少(廃棄物減少)	貢献効果合計
	351万 t-CO <sub>2</sub> 減少 (8.7%減少)	20万 t-CO <sub>2</sub> 減少 (8.7%減少)	63万 t-CO <sub>2</sub> 減少 (3.9%減少)	11万 t-CO <sub>2</sub> 減少 (4.5%減少)	<b>445万 t-CO<sub>2</sub>減少 (7.3%減少)</b>
宿泊業の排出量351万t-CO <sub>2</sub> 、小売業の排出量330万t-CO <sub>2</sub> よりも大きい					

※ 2030年度のシェアリングエコノミー市場規模が1兆2,799億円(課題解決シナリオ)まで拡大すると想定した場合の推計。  
 ※ 基準となるCO<sub>2</sub>排出量は2020年度データから計算。



算出の考え方:

### 【スペースのシェア】

CO<sub>2</sub>が排出されるタイミング:「A 新築建設時」と「B 建設廃棄物処理時」

↓

ABを「C 既存の建築物をシェアして活用」に変え、  
2030年のシェアリングエコノミー市場規模の値(44,221億円)で算出

↓

CO<sub>2</sub>の削減量「A:351万t」+「B:20万t」=「371万t」

### 【モノのシェア】

CO<sub>2</sub>が排出されるタイミング:「A 家庭で利用するモノの生産時」と「B 家庭ゴミ処理時」

↓

ABを「C 既存のモノをシェアして活用」に変え、  
2030年のシェアリングエコノミー市場規模の値(3,4441億円)で算出

↓

CO2の削減量「A:63万t」+「B:11万t」=「74万t」

▼上記「CO2排出削減効果」に関する詳細や、「資源消費削減効果」「シェアサービス利用によるSDGsへの貢献効果」に関する、調査資料はこちらよりご覧いただけます。

<https://sharing-economy.jp/ja/wp-content/uploads/2022/03/4d33a8a87b97ea845d296a5e9b40539f.pdf>

## ・シェアリングエコノミー × SDGsの貢献効果に関するメディア説明会

2022年4月5日(火)14時~15時半、オンラインメディア説明会を開催します。

### 発表内容

(モデレーター 常任理事 石山アンジュ)

#### ○ 協会のSDGsに関する取り組みについて

株式会社エアーフローゼット 代表取締役社長 兼 CEO 天沼 聡 氏

(SDGsワーキンググループ主幹事企業)

#### ○ 最新の調査結果について

株式会社情報通信総合研究所 情報通信総合研究所

ICTリサーチ・コンサルティング部主任研究員 山本 悠介 氏

#### ○ SDGsマップについて

協会ビジネス企画・ユーザースペシャリスト 加藤こういち

#### ○ 質疑応答

#### ○ シェア事業者によるSDGsに貢献する取り組み紹介

株式会社ココナラ、akippa株式会社、株式会社ビザスク、株式会社Nature Innovation Group(アイカサ)、株式会社クラス、株式会社クラウドケア、株式会社NearMe(ニアミー)、株式会社タスカジ、ラクサス・テクノロジーズ株式会社、株式会社コークッキング(TABETE)、株式会社スペースマーケット、ecbo株式会社、株式会社Luup、株式会社エアーフローゼット、株式会社ガイアックス(aini): 順不同

▼当日の視聴や、記事化を希望される方は、以下フォームまでお問い合わせ下さいませ。

<https://forms.gle/95rH8HsoX6t1zrLu5>

**(\*) シェアリングエコノミーサービスの定義について**

対象とするサービスはインターネット上で資産やスキルの提供者と利用者を結びつけるもの、利用したいときにすぐ取引が成立するものとする。

**(\*1) 2020年度 シェアリングエコノミー関連調査「SDGsへの貢献」**

<https://sharing-economy.jp/ja/news/20201116>

**(\*2) 2022年作成「シェアサービスのSDGs貢献MAP」**

<https://sharing-economy.jp/ja/sdgs-map202201>

**(\*3) 推計に関する補足**

- ・サプライチェーンの資源消費・CO2排出も含む
- ・基準となるCO2排出量は2020年度データから計算
- ・2030年度のシェアリングエコノミー市場規模が14兆2,799億円（課題解決シナリオ）まで拡大すると想定した場合

詳細：<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000064.000022734.html>

**【一般社団法人シェアリングエコノミー協会】**

<https://sharing-economy.jp/ja/>

シェアリングエコノミーとは、インターネットを介して個人と個人・企業等の間でモノ・場所・技能などを売買・貸し借りする等の経済モデルです。モノ、スペース、スキル、時間などあらゆる資産を共有する「シェア」の考えや消費スタイルが日に日に広がりを見せています。これからの日本経済の発展につなげられるよう、シェアリングエコノミー協会では、法的な整備をはじめ、安全な市場環境の整備に取り組んでいます。

**【株式会社情報通信総合研究所】**

<https://www.icr.co.jp/>

情報通信専門のシンクタンクとして、1985年6月に、国内外の情報通信に関する調査・研究を専門とするシンクタンクとして設立されました。固定通信や移動通信、インターネット・ICT、通信と放送の融合から地域の情報化など、情報通信関連の調査研究、コンサルティング、マーケティング、出版事業などの活動を展開しています。

本調査について詳細に分析した報告書及びデータ集を、情報通信総合研究所より販売予定です。

調査内容に関する問合せ先：山本悠介（E-mail：[yamamoto@icr.co.jp](mailto:yamamoto@icr.co.jp)、Tel:03-3663-7500）